

いにしえより特徴ある地形や地質に影響を受けてきた人々の足跡のある地域・吉田

内陸部にあり海岸線に接しない地域である吉田は、現在の鹿児島湾付近にあった始良火山や始良市の思川沿いにある断層運動などに影響を受けた地史を有します。また、250 万年前には北薩地域から吉田地域にかけて大きな湖が存在した地層も確認できます。90 万年前から 40 万年前には現在の鹿児島湾から連続した海が吉田地域にまで及んでおり、内湾の様相を呈した地層が広がっています。その中には火山活動によって発生した火砕流が堆積した場所などもあり、洗顔料の原料として活用されています。

吉田南東部の山間部は、250 万年前から 40 万年前の間にも火山活動や隆起活動が継続し、牟礼岡や赤崩^{あかぐえ}などの山地が連続しています。

さらに南九州全体の破局的な火山活動はその後も続き、吉田地域には、11 万年前の阿多カルデラの噴出部や 3 万年前の始良カルデラの噴出物が堆積し、溶結凝灰岩として産出され、浸食されて崖を形成しています。こうした地質が浸食されて谷や崖、そして平野が形成され、そこに人々は田畑を広げ暮らし始めました。吉田地域は、穏やかに見える風景の中に雄大な地史が隠れています。

中世までは大隅国の吉田院として様々な勢力が領地とし、戦国期の初め頃まで吉田氏が松尾城こと吉田城を中心に地域を治めました。松尾城は石材も産出する溶結凝灰岩と火砕流堆積物からなる堅固な城でした。島津本宗家が吉田氏を降伏させると、隣接する地域に勢力のあった蒲生氏と対峙する場所となり、蒲生氏が敗れると、本宗家当主である貴久の三男・島津歳久が松尾城に入りました。

江戸時代には薩摩国の吉田郷として、鹿児島藩の直轄領となり、谷間に田が開発され、南東の山間部では牧も設けられました。

特徴的な地形や地質を巧みに利用しながら開拓し暮らしてきた証が、吉田地域の文化財の物語を豊かにしています。

1. 西佐多浦・東佐多浦地区～吉田院・吉田郷、時代を通じての中心地～

江戸時代の吉田郷の中心である麓が広がる地区です。また吉田院時代からの中心であった松尾城もあり、鹿児島城下と蒲生方面を結ぶ街道沿いでもあります。それらを反映して旧領主や島津氏にとって大切な寺院などが点在しており、行政機能が置かれた場所として、長らく吉田を支えてきました。

①鶴ノ木の田の神(市指定文化財)と講

鶴ノ木公民館内に安置されている田の神石像は彩色が施された立派なものです。享

保 21 (1736) 年に建立されています。田の神は地域で信仰されており、講も行われています。かつて麓地区では持ち回りの田の神があるなど、講もより盛んでした。

②各地の棒踊り

吉田地域では棒踊りが盛んです。西下では、田の神の遷座祭の際に棒踊りが奉納されています。本城にある花尾神社の春祭りでは本城棒踊り(県指定文化財)が奉納されます。吉田地域では田植え前に踊られることから田植え踊りとも呼ばれています。

③天狗踊り

城内集落に伝わる踊りです。かつて松尾城の城主であった島津歳久をなぐさめるために、滑稽な踊りを披露しようと人々が考案したのが始まりとされています。踊りも歌詞も滑稽で、細々と継承されています。現在は休止されていますが、記録はあり再演は可能です。



松尾城跡

④学童疎開とその交流

太平洋戦争中、疎開のために離島から児童が集団で吉田地域に来ました。種子島の南種子にある島間小学校の児童がこの地に来たことを示す記念碑が、旧吉田小学校の校庭脇にあります。



学童疎開之碑

⑤松尾城内の宝勝院跡

真言宗の寺院で、本尊として如意輪観音像が安置されていました。松尾城主の吉田氏によって信仰され、吉田氏の滅亡後、島津歳久が再興しました。吉田郷の祈願寺で、当時あった場所には石塔が点在しています。またこの場所は松尾城の大手口にあたります。



宝勝院跡

⑥城内の野町^{しろうち のまち}

江戸時代に商売をすることが藩に公式に認められていた場所を野町といい、吉田郷における野町があった場所が城内でした。当時の様子を伝えるものとして、恵比寿様を祭る社が残されています。蒲生や重富方面に抜ける街道沿いにもあたり、油屋、塩屋、宿があったと伝わります。

⑦^{みる}稔橋

昭和 20(1945)年 4 月に本土上陸作戦対応のため陸軍第 77 師団が吉田にも駐屯しました。この部隊は北海道出身者が多く、稔兵団(稔部隊)とも呼ばれていました。地域の人々と交流もあり、終戦を迎えて部隊が解散した後、この部隊によって拡張された橋に「稔橋」の名が付けられました。稔は隊の名前です。

⑧吉田小学校前の招魂碑

麓地区を中心として、西南戦争から太平洋戦争に従軍し亡くなった人々を弔う記念碑が立ち並んでいます。かつては、この招魂碑で六月灯が行われていました。

⑨一心碑

旧吉田小学校では、教育熱心な地域の先人たちが優秀な先生を招聘する制度があったといえます。通常の二倍の給与を支払うために奨学会が資金援助していたそうです。その奨学会の解散を記念して建てられたのが一心碑で、旧吉田小学校にあります。奨学会の設立は昭和 8 (1933)年のことで、隣接する蒲生にある共有社の先例に倣ったと思われます。



一心碑

⑩麓凝灰岩

かつて海であったことを示す地層である国分層の上部には、火山活動によって堆積した地層が集まった場所があります。地層の厚さは約 12m で、その地層の中には堆積した後に地震が発生したことを示す液状化の痕跡を見ることができます。現在この地層は採掘されていて、洗顔料などに利用されています。

⑪東下の田の神(市指定文化財)

神舞神職型の田の神で享保 21 (1736) 年に造立されています。この田の神と類似しているのが、鶉ノ木公民館と始良市触田の田の神で、同時期かつ石工の前田喜八も同じと考えられます。表情のユーモラスな感じは人々の心をひきつけます。



東下の田の神

⑫ 仏智山津友寺跡(市指定文化財)

曹洞宗の寺院であり、島津家 12 代忠治の菩提寺でもありました。島津忠治は、吉田氏の居城である松尾城を攻めましたが、攻めきれずに亡くなりました。その無念を押し量り、弟の忠隆が吉田氏の寺院であった了心寺の場所に津友寺として建立しました。母方が大友氏であったことから、島津と大友から一字ずつ採り寺の名が付けられました。



仏智山津友寺跡

2. 本城地区～険峻な山々の麓に広がる里～

鹿児島城下から蒲生に抜ける街道と、郡山郷から蒲生に抜ける街道の両方が西と東に通る地区です。吉田町時代には役場が置かれた場所でもあります。地区の西側の山間部の宇都谷は、西郷隆盛とともに西南戦争において戦った桐野利秋の開墾地があることで有名です。

① 溪谷園の滝

良質の温泉として有名な溪谷園には駐車場の背後に滝つぼまで近づくことのできる滝があり、紅葉の季節は特に色づく木々とともに楽しむことができます。

② 吉田分校

昭和 25(1950)年に定時制課程として、県立蒲生高校の吉田分校として開校しました。昭和 32(1957)年 4 月から本科農業科の中に農業コースと家庭コースが設置されましたが、昭和 56(1981)年には募集が停止され、閉校となりました。

③ 本城ナス

伝統野菜として本城地区で盛んに栽培されています。

3. 本名地区～一時期吉田院の拠点も置かれた田園地帯～

中世まで吉田院の三名の 1 つで、大切な稲作地帯でもありました。また大隅国の一之宮である大隅正八幡宮こと鹿児島神宮とも関係のある八幡神社が鎮座しています。戦国期まで吉田院を治めていた吉田氏が信仰していた神社でもあり、後に島津氏も当社を信仰しています。

①八幡神社(県指定文化財)

吉田^{きよあり}清存を御祭神として建立されたと伝わります。その後、八幡の名称にあるように応神天皇や神功皇后などが御祭神として祭られ信仰されるようになりました。元禄5(1692)年建立の本殿は造形も美しく、またその内部に安置されている宮殿も天文5(1536)年に造られた貴重なものです。神社入口には仁王像もあります。隣接する学校内に参道が通っています。



八幡神社

②後本の虚空像菩薩

本名川を見下ろす小高い丘の上に木造の祠があります。祠の中には石像と木像が一体ずつ置かれています。創建年代は不明ですが、昭和10(1935)年に祠を改修した際の記念碑があります。



後本の虚空像菩薩

③本名川の素掘りトンネル

作られた時代は不明ですが、本名川の流れを変えて水を農業に利用するために、シラス(火砕流堆積物)をくり抜いています。河川トンネルで大規模なものです。

4. 宮之浦地区～鹿児島藩を代表する牧と街道のある地域～

江戸時代には鹿児島近在の吉野村や川上村と接し、鹿児島藩の主要街道の1つでもあった大口筋が通っています。この街道は山間部を超えて重富方面に抜ける白銀坂の入口にあたります。また、吉野村から連続した牧もあり、鹿児島湾や桜島を美しく望める牟礼岡の頂上には、牛馬の神でもある馬頭観音が祭られています。そのため、吉野村の歴史物語と重なる物語が数多く受け継がれています。

①牟礼岡の牧神

牟礼岡の山頂にある巨石の場所に馬頭観音や牟礼神社が祭られ、それらを含めて牧神として信仰されています。巨石の中には黄金の馬鞍が入っているとの伝承もあります。毎年4月15日が例祭日で、地区の方々からは「まっがんさあ」の祭と呼ばれています。

②吉水の旧道

鹿児島方面から蒲生方面に抜ける旧街道が、吉水の鬼子母神石像のある場所付近から吉田地域の物産館のある谷方面に伸びていました。現在の県道 25 号よりも山手を通る道でした。



吉水の旧道

③吉水の田の神

集落の道路沿いに地蔵菩薩像とともに安置されています。神舞神職型の田の神で、顔に彩色が施されているのが特徴です。



吉水の田の神

④吉水の棒踊り

通称「二月踊り」と呼ばれ、鎮守神社の例祭日に踊られていました。現在は宮小学校の運動会で児童によって披露されています。

⑤大原からの桜島の眺望

宮之浦地区の平たい台地上の大原からは、桜島の頂上付近を美しく望むことができます。吉田地域は東側の山頂付近まで足を運ばないと桜島を望めない中、大原だけは台地で隔てるものがないことから、桜島を望む環境が整っています。しかし、大原は台地上にあって生活が大変であったため、昔は「大原には娘を嫁がせるな」と言われていたそうです。

⑥倉谷の水くみ場・石蔵

倉谷集落はその名の通り、谷の中に集落があります。そのために水が集まる環境にあり、水くみ場があります。また収穫物を保管するための石蔵もあります。

⑦倉谷公民館の馬頭観音

公民館横に馬頭観音像が安置されています。昔はさらに山の中にあったようですが、最近になって山から地域の方である野添氏が現在地におろし、1日と15日には柴をお供えするなどの管理を行っています。

⑧倉谷公民館の百日咳の神様

山の神として石祠がありますが、百日咳こと「おねっの神」としても信仰されています。火吹き竹を納める習わしがあったそうです。

⑨赤滝

宮之浦の字・滝ノ上という場所にある滝で、高さは 20m を超えます。赤滝の名前は、大蛇が人を飲み込もうとした際に、刀と一緒に飲み込み、大蛇が2つに裂け、滝が血で染まったという伝説に由来します。

⑩八幡神社

伝承によると、京都の岩清水八幡神社からの勧請とされています。祭の際にはお供えを 17 膳供える決まりがありましたが、現在は途絶えています。



八幡神社

【吉田地域の主な未指定文化財リスト】

1. 西佐多浦・東佐多浦地区	
1	西下の棒踊り
2	天狗踊り
3	学童疎開之碑
4	宝勝院跡
5	城内の野町
6	稔橋
7	招魂碑
8	一心碑
9	麓凝灰岩
2. 本城地区	
1 0	溪谷園の滝
1 1	吉田分校
1 2	本城ナス
3. 本名地区	
1 3	後本の虚空像菩薩
1 4	本名川の素掘りトンネル
4. 宮之浦地区	

1 5	牟礼岡の牧神
1 6	吉水の旧道
1 7	吉水の田の神
1 8	吉水の棒踊り
1 9	大原からの桜島の眺望
2 0	倉谷の水くみ場・石藏
2 1	倉谷公民館の馬頭観音
2 2	倉谷公民館の百日咳の神様
2 3	赤滝
2 4	八幡神社